

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所属・職・氏名	新温泉町立 夢が丘中学校 主幹教諭 鎌田 美由紀	研究グループ名 (子どもの感情発達を育む支援を考える会)	採択番号
-------------	-----------------------------	---------------------------------	------

研究テーマ分類番号(16)

県教育委員会のホームページに掲載します。

(1)研究テーマ

子どもの感情発達を促す教師の支援のあり方

(2)研究経過及び具体的な取組

- 6月23日(日)理論及び実践研修
 - ・実施場所：美方郡教育会館
 - ・参加人数：グループ内4名 その他6名
 - ・内容：「子どもの感情発達の現状と発達を支援するための適切なかわり方を学ぶ」
 - ・概要：感情と脳・身体・行動との関係をストレスマネジメントの視点から理解する。
：感情との適切なかわり方を理解するとともに、その対応をトレーニングする。
 - ・成果と課題
子どもへどうかかわるのかという知識やスキルのことももちろん大切だが、それ以上に教師や母親の子育てでの苦しみや辛さに寄り添い、その気持ちを受容するプロセスが重要である。それがとても重要な子どもの支援となる。母親支援の環境を整えることが必要である。
- 7月18日(木)授業実践
 - ・実施場所：温泉小学校
 - ・参加人数：グループ内2名 その他4名
 - ・内容：リラクセーションを用いた「気持ちとからだはなかよし」の授業を4年生に行う。
 - ・成果と課題
小学生へのリラクセーション効果を実証できた。こうした授業実践ができる教師のスキルを高める必要がある。
- 7月25日(木)理論及び実践研修
 - ・実施場所：美方郡教育会館
 - ・参加人数：グループ内5名 その他3名
 - ・内容：子どもの感情を育む行動変容を促す授業実践を理解する
 - ・概要：行動変容を促すライフスキル教育とリラクセーション
：「気持ちとからだはなかよし」の模擬授業
 - ・成果と課題
模擬授業を体験し、授業への垣根が低くなった。「これなら自分でも取り組みそう」と感じた教師が多かった。教師が実践へつなげられる研修を、いかに仕組むかが重要である。
- 9月28日(土)課題を抱える子どもの支援についての事例検討会
 - ・実施場所：美方郡教育会館
 - ・参加人数：グループ内5名 その他5名
 - ・内容：「思春期に爆発したAへの支援」「自己の限界に傷つく子どもへの教師の声をかけはどうすればよいか」「多動傾向のAへの対応」「子育てで苦しむ母親の支援を考える」
 - ・スーパーバイザー 兵庫教育大学 心理学系准教授
 - ・成果と課題
同様の悩みで苦しんでいる仲間との検討会は、悩んでいるのは自分一人ではないと感じるとともに、安心感が高まった。一人じゃないという感覚を教師が持てることが大切である。